

※正答は省略

■出題のねらい

情報科学部では4学科ともにコンピュータプログラミングに関する教育を重視しています。

コンピュータプログラムとは、コンピュータに実行させる処理の手順を厳密に記述したものです。プログラムを構成する構造的要素としては、接続（命令を実行順に記述したもの）、条件分岐、反復（ループ）の3つがあります。このようなプログラムを作成するためには、以下を実行する能力が求められます。

- ①要求仕様を正しく理解する。
- ②問題を解く手順を構成する。
- ③上記手順を接続、条件分岐、反復の構造を用いてプログラミング言語で記述する。

本小論文の課題は、地図上に設定された出発地から目的地までの道順を文章で説明するものです。この課題を解決するためには、上記①～③に対応する下記（a）～（c）の能力が要求されます。

- （a） 問題文を読んで要求・制約条件を理解する。
- （b） 要求・制約条件を満たす道順を考える。
- （c） 本課題では反復は含まないが、接続、条件分岐の構造を含みかつ曖昧性のない正確な文章で道順を記述する。

以上の観点から本課題の解決にはプログラム作成に類似の基礎的能力が必要であり、この能力を評価することをねらいとして出題しました。

■採点講評

身近なテーマであることから、すべての受験者が自分なりの言葉で解答できていました。ほとんどの解答は、目的地までの道順が説明できており、問題を理解して取り組めていました。ただし、1) 題意の正確な理解（問題の理解度）、2) 条件分岐を含む題意に即した正しい案内文の作成（内容の妥当性）、3) 相手が道順をイメージできる説明表現（文章の伝達力）の観点で、説明文の内容に差が生じていました。以下、それぞれの項目について解答例とともに講評し、最後に総括を述べます。

1) 問題の理解度

問題文で指定された「です・ます調」の文末形式になっていない。また、他と混在しているケースがいくつか見受けられました。また、禁止されている経路を含んだ道順の説明もいくつか見受けられました。

2) 内容の妥当性

地図上の⑤の個所が通れる場合と通れない場合の迂回ルートが、正しく書かれていない解答が散見されました。また、最短ルートを含んでいないケースや最短ルートだけでなく、それ以外の遠回りのルートの説明も含んでおり、題意に即した案内文になっていない解答も多く見受けられました。さらに、ランドマークを使い、問題文で要求している『途中で「ひょっとして道を間違えたかな?」と不安にならない』丁寧な説明になっている解答がある反面、丁寧に説明しようとして、冗長な表現になり、論理性を欠く説明になった解答も見受けられました。

3) 文章の伝達力

右折や左折、横断などのアクションを起こす場所が地図上で一意に特定できない説明や不明瞭な個所がある説明が見られました。しかし、その多くは、説明しようとするルートがほぼ推定できるものでした。

上記以外にも、道順案内とは全く関係のない説明を含み、全体が冗長な説明になっている解答がありました。

■総括

総じて、解答された説明文の多くに、多少の冗長性や論理矛盾がありましたが、全体として意図が読み取れるものになっていました。情報科学部で学ぶプログラミングでは、課題に対する理解力や論理的な表現力が要求されます。正しく理解しているかどうか、論理矛盾がないかのチェックを行うためには、客観的に見直す（推敲する）習慣をつけることが重要です。日頃から数多くの文章に接するとともに、その文章を縮約してみるなどの訓練を行うことで、情報を的確に捉え、わかりやすい文章を書くことができると考えられます。